



ウラジーミル・レーニン像

“批判” 正解

“批判” の正解

少し前になるが数人の友人、いずれも高級知識人が、面会のため来社されることがある。なんでも包み隠さず語り合った仲間で、長らくお会いしていなかったこともあり、互いに顔をみるなり会話が弾んだ。話によっては意見も対立して、互いに譲らず、喧々諤々とやりあった。夜が更けても、議論に決着がつかず、その日はあいこで終わりにした。今晚それを振りかえって、ふとそれに普遍的な意味が存在することに気がついた。それは、“批判” にたいする見方で、この問題について公開書簡形式で、この問題に関する私の意見を申し上げたい。

“批判” という言葉を聞くと、皆がどうして不愉快な気持ちになるのでしょうか。“批判” の材料に取り上げると、何もかも否定されて、大打撃を受けて、それで一切が終わりなるのでしょうか。これは“批判” にたいする大きな誤解ではないのでしょうか。

思想批判、学術批判等は、全てを否定する、或いは全てに打撃を与えることが目的ではなく、精製淘汰をへて、一層よい状態で遺産を引き継ぎ、文化を発展させ、社会主義事業を発展させる為にあるのです。この意義からすると、批判はなにも悪いものではなく、常にそれを必要とする良いものである。マルクス主義が打ち砕くことのできない真理と認められるにいたったのは、マルクス主義の創始者——マルクス自身が、この批判方法を用いて理論を研究し、新しい思想体系を打ち建てていったからである。

マルクスの初期における重要な著作に、『政治経済学批判』がある。政治経済学を正面から研究した理論著書である。マルクスのこの書は、政治経済学という新しい体系を切り開いた名著であるにもかかわらず、何故批判と名付けたか。

答は明白である。批判が唯一の正確な研究方法であるということだ。批判が即ち研究であり、批判を欠いた研究は研究と呼ぶに値しない。

故に、レーニンはマルクスの研究方法を紹介して述べた。“マルクスは研究過程において、人類社会の発展法則として、資本主義が必然的に共産主義に向かうことを知るに至った。……人類社会が創出した物は何であれ、彼は批判的な態度を以て之に検討を加え、いかに仔細な事物といえども決して疎かにしなかった。人類が思惟をとおして作り上げた全ての思想に対して、あらためて検討し、批判を加え、労働者運動の実践に基づき、逐一検討を加え、出てきた結論が、資産階級の近視眼的に制限された、或いは資産階級の偏見に束縛された人々によっては得ることのできない結論であった。”レーニンのこの話は『青年団の任務』という報告のなかで述べたものであるが、これはマルクス思想の研究方法を概括的に述べた極めて重要な文書である。

ここで云う批判とは、十八世紀のドイツ主観唯心主義哲学者、カントが云う所の批判主義とは違う。我々の云う批判とは弁証唯物主義と歴史唯物主義の運用により、あらゆる問題を具体的に分析し、現象を通して本質を把握する研究過程を云うのである。この方法を正しく運用すれば、過去に人類が創出した全てにたいして、盲目的に全てを肯定もしなければ、一把ひとからげに否定もしない。この過程において不合理かつ不正確なものは全て淘汰され、合理的でかつ正確なもののみが選ばれて、残されるのである。哲学用語でこれを云えば、この批判過程が即ち、アウフヘーベンの過程である。アウフヘーベンこの哲学概念は、ヘーゲルが作った言葉であるが、マルクス主義哲学にあっても、この概念そのものが、批判と止揚の過程である。この様にして、大きく発展して、高度の思惟活動において不可欠の方法となった。

であるから、我々の学術研究や思想教育にあつてこの批判方法を採用して不都合はなからう。このような批判方法と批判態度を採用せず研究を行えば、結果は主観的独断に至るに違いない。この独断こそが、批判の相対立するところ、科学の敵に外ならないのである。独断は全てを肯定するか、否定するかであり、客観事物の弁証関係より完全に離反するものである。皆さんが批判を喜ばないとすれば、独断を歓迎する道にはまり込むことになるのだ。

親愛なる友よ、我々の年齢はすでに苦楽を共にし、それなりの経験があるので、今更誰が、そんな学者の欺瞞に満ちた資産階級の甘言に眼を眩まされるだろうか。彼らはゴマ粒ほどの材料や感想に基づき、ある説を立て、演繹方法を使って推論を繰り返して、学説をでっち上げて、自ら一家をなすのである。彼らご自慢の学説は徹頭徹尾に独断であり、相当多くの独断的要素を含んでいる。このような例は、あなたたちは全てお得意の科目であった、まさか忘れてはいないでしょうか？

過去における思想批判や学術批判において、人によってはこの方法を正しく用いることが出来なかったので、欠点や誤りを犯すことになった、これは避けがたい問題であった。私は発生した欠点や誤りを弁解するつもりはない。けれども、批判方法がなくては、原因の追究をおこなっても、依然批判の正確な意義を理解することができない。これは批判に対する誤解があるからである。皆さんの意見は如何や？

【掲載当時の時代考証と秘められたメッセージ】

『“批判” 正解』ひとそえ

実は前回と今回、第1集最終の二つの文章はそれまでの28編と味わいを異にします。囲碁の国際交流や宇宙飛行士の話題などの一見具体的で、親しみやすい内容が多くて、深読み「ひとそえ」が可能でした。夕刊紙『北京晩報』の人気コラムニストとしての鄧拓の面目躍如でした。夏なら胡同の床几に座って蘊蓄を傾け、冬なら長い夜に子供達を相手に嘸み砕いて語るに打って付けの印象が残ります。

当時の北京の識字率は地方より高かったでしょうが、それでも1960年初頭に、夕刊紙で鄧拓の文章を読みこなせるのは、限られた都市インテリ層がほとんどだったではないでしょうか。工人・農民・兵士の「工農兵」を読者に想定して書く、と作者は建前として書いています。しかし将来への種播きは別として、実際は「工農兵」が紙背を読むには難しいテーマも出てきます。今回の第1集の最終二編は、とりわけ難解で硬質の文章だと思います。

その為、軽みを以ていなすことは出来ませんでした。前号のA・A研究所情報の転記に続いて、安直な弁明の「ひとそえ」です。

それにしても今回の鄧拓は、重厚な哲学知識を系統的に披瀝して隙を与えない（余裕の無い）印象が残ります。何故でしょうか？

井上邦久

“批判” 正解 原文

有几个老朋友，都是高级知识分子，不久以前来看我。因为分别多年，过去又是无话不谈的，这一见面就什么都谈个痛快。中间有些不同的意见，各持一说，吵得脸红脖子粗。夜深了，有的还没有吵清楚，也只好不了了之。今晚想起有一个问题是带有普遍意义的，这就是对于“批判”的看法，应该向我的老朋友写一封公开信，把我的意见再作一番申述。

朋友们，你们为什么那样不高兴听“批判”这两个字呢？难道一提到“批判”就真的觉得受到打击，就什么都被否定，一切完蛋了吗？我认为这是对于“批判”的极大误解。

其实，不论是思想批判、学术批判等等，决不是以“打击”或“否定”一切为目的的；而是为了去粗取精，去伪存真，更好地接受遗产，发展文化，发展我们的社会主义事业。从这个意义上说，批判不但不是什么坏东西，而且是我们经常需要的好东西。马克思主义所以被公认为颠扑不破的真理，就因为马克思主义的创始者——马克思自己，一直用批判的方法进行他的理论研究，建立了崭新的思想体系。

马克思早期的一部重要著作，题目就是《政治经济学批判》。为什么马克思把正面研究政治经济学的理论著作称为批判呢？难道马克思写成这部书，不是建立了政治经济学这一门新的科学体系吗？

问题很明显，批判是唯一正确的研究方法，批判即是研究，没有批判的研究就不能叫做研究。

所以，列宁在介绍马克思的研究方法的时候说：“马克思研究了人类社会发展的规律，了解到资本主义的发展必然会走向共产主义。……凡是人类社会所创造的一切，他都用批判的态度加以审查，任何一点也没有忽略过去。凡是人类思想所建树的一切，他都重新探讨过，批判过，根据工人运动的实践，一一检验过，于是就得出那些被资产阶级狭隘性所限制或被资产阶级偏见束缚住的人所不能得出的结论。”列宁的这一段话虽然是在《青年团的任务》的报告中说出的，但是，这无疑是对于马克思的研究方法的非常重要的概括。

这里所说的批判，当然与十八世纪德国的主观唯心主义哲学家康德的所谓批判主义完全不同。我们的批判是运用辩证唯物主义和历史唯物主义，对各种具体问题进行具体分析，透过现象抓住本质的研究过程。正确地运用这个方法，对于人类已经创造的一切，既不是盲目地全部加以肯定；也不是笼统地一概加以否定。

在这个过程中，凡是不合理的不正确的东西都要被抛弃；凡是合理的正确的东西都要得到进一步的发扬。用哲学的术语来说，这个批判的过程也就是扬弃的过程。扬弃这个哲学概念，所谓“奥伏赫变”，虽然是黑格尔的创造，可是，在马克思主义哲学中，这个概念本身也经过了批判和扬弃的过程，而有了重大的发展，成为高级思维必不可缺的方法。

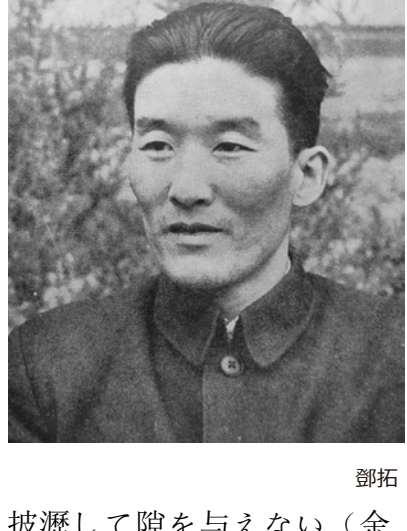
那末，我们在学术研究和思想教育中采用这样的批判方法又有什么不好呢？如果不采取这样的批判方法和批判态度来进行研究工作，结果就只能主观武断。而武断，作为批判的对立面，却是科学的敌人。它不是肯定一切，就是否定一切，完全违背了客观事物的辩证关系。如果你们不喜欢批判，难道你们会喜欢武断不成？

我的亲爱的朋友们，坦白地说，我们大家都是有了些经验的人，谁不懂得资产阶级的某些学者欺世盗名的秘密呢？他们常常根据一点零星片断的材料和感想，就武断地做出某种假设，然后再用演绎的方法，进行许多推论，从而构成某种学说，于是就自成一派。其实，他们自鸣得意的所谓学说，有的是彻头彻尾的武断，有的也包含了相当多的武断成分。这类例子在我们的朋友中都能够举得出来，你们难道忘记了么？

至于说在过去的思想批判和学术批判中，有些人不会正确地运用这个方法，以致发生某些缺点或错误，恐怕也是难免的。我并不为那些可能发生过的缺点和错误辩解。但是，不会运用批判的方法，追究原因，仍然是由于不了解批判的正确意义，对于批判有了误解的缘故，不知你们以为如何？



ウラジーミル・レーニン



鄧拓

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久

井上邦久